

ハンドマイク街頭演説 宣伝原稿例 TPP衆院強行通過糾弾

二〇一六年十一月十日 日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所の皆さん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間、ご協力をお願いいたします。

本日、衆議院本会議で環太平洋連携協定（TPP）承認案と関連法案が自民・公明などによって強行採決されました。日本共産党は、四日の特別委員会に続いての強行採決に断固抗議するものです。

最大の問題は、TPPを担当する山本農林水産大臣の二度にわたる暴言です。しかも、二回目の暴言は、最初の暴言について陳謝した直後に「冗談を言ったらクビになりそうになった」などと言い放ったものです。日本共産党はじめ野党は山本大臣の責任は重大であるとして、辞任を要求しました。ところが政府・与党は「ゼロ回答」のまま、一方的に特別委員会を開いて強行採決しました。衆議院のルールにも反するやり方で、自民党出身の大島衆議院議長も「平穏な状況での採決ではない」と発言するほどの暴挙です。

野党は、特別委員会での採決は異常であり、差し戻してやり直すべきだと主張しています。にもかかわらず、与党側は本会議での採決を強行しました。特別委員会の異常なやり方に何の反省もない与党のやり方は、本当に許せません。野党は山本大臣の不信任案を衆議院に提出しましたが、与党の反対多数で否決されました。日本共産党は引き続き山本大臣の辞任を求めるとともに、参議院で廃案に追い込むために力を尽くします。

先日、アメリカ大統領選挙でトランプ氏が勝利を決めました。トランプ氏はTPPについて「大統領就任初日に離脱する」と反対の立場を表明しています。アメリカが離脱すればTPPは発効できなくなるルールのため、トランプ氏の大統領選挙勝利によって、TPPそのものがどうなるかわからなくなりました。現在、TPP協定を承認する「批准（ひじゅん）」を済ませた国はまだ1カ国もありません。日本だけが急いで承認手続きを進める必要はありません。今はじっくり審議して、問題点を明らかにすることこそ必要です。みなさん、「ルール無視の強行採決は許せない」、「TPPは慎重審議・廃案を」の声を、ご一緒にあげましょう。

そもそも、TPPには多くの問題点があります。農業と食の安全の問題が大きく報道されていますが、それだけではありません。医療や保険などさまざまな分野で、多国籍大企業の利益を守り、国民の暮らしや権利を危険にさらすものです。こんな問題だらけのTPPを受け入れるわけにはいきません。みなさん、TPP反対の声を一緒にあげましょう。

日本共産党の発行している「ほんぶん赤旗」は、国政や地方政治の問題から毎日の生活に役立つ情報まで、幅広くご紹介しています。この機会に「ほんぶん赤旗」をぜひお読みいただきましたきますようお願いしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございます。ごさいました。す。